

学校だより

恵那市立岩邑中学校

温故知新

学校の教育目標

確かな学力 豊かな心 逞しい体

令和4年7月20日

『アクセルとブレーキ、そしてハンドル』

校長 丸山 成之

1学期が終わりました。明日からは夏休みです。後悔のない36日間にするために、考えてほしいことを伝えます。

今の世の中は、交通や情報だけでなく、ビジネスの世界も含めて様々な場面でスピードが追求されています。

交通を例に見てみると、日本が世界に誇る新幹線もすごいスピードで走行し、次世代の交通機関として期待される「リニア」も実用化に向けて工事が進んでいます。しかし、この「リニア」の実用化では、スピードを上げることと同時に、いかに安全に止まるかも重要な課題になっていました。「動くこと」と「止まること」は、つまり「アクセル」と「ブレーキ」で、セットの働きというわけです。

さて、このことを「自分」という車を走らせることに例えて、毎日の生活を考えてみましょう。

わたしたちが行動するとき、「〇〇だからこうしよう」など、頭で考え判断し、心で後押しをする。つまり、自らの意思でアクセルを踏んで前に進みます。この「アクセルを踏むこと」は、行動するうえで原動力となるのでとても大切です。

今日はやる気になれない…誰にでもそのような経験はあると思いますが、でも奮い立ってアクセルを踏まないで前に進みません。アクセルを踏むことは一歩前に踏み出すという意味で重要なのです。

では、「アクセルを踏みさえすればよいか」というと、それだけでは困ります。強く踏めば、脇目も振らずわが道をまっすぐ進むことになり、衝突する危険性が高まります。自分や他の人が傷ついたり、迷惑がかかったりしかねません。わたしたちは毎日生活をする上で、前に進む「アクセル」と同時に、安全な「ブレーキ」を身につけていなければなりません。

「これは行き過ぎではないか」、「人を傷つける行為ではないか」、「人として行うべきではないのではないかなど、自分で自分に問いかけてみる。これが心のブレーキです。「自制」「自己制御」という言葉に置き換えることもできます。このアクセルとブレーキをバランスよく踏み分けて生活することが大切です。

加えて、特に大切にしたいのが、「ハンドル」です。わたしたちは、常にどちらに進もうか、何を選ぼうかと、さまざまなことを選択しながら生きています。

「今どの方向に進んでいるのか」、「目的に向かって進んでいるのか」、「辺りをさまようように回っていないか」、「誤った方向に進んでいるのではないか」、「引き返すべきではないのか…」などを確認しながら、確かなハンドルさばきでよりよく毎日をすごしたいものです。毎日の生活が積み重なり、それがみなさんの人生につながります。目の前をよく見るとともに、将来の目標を定め、心のアクセルとブレーキを上手に使い分けながらも、確かなハンドルをもって自律的に自らをコントロールして、より良い人生を歩んでほしいと願います。

夏休みも「アクセル」「ブレーキ」、「ハンドル」を巧みに用い、充実した生活を期待します。

【給食費に関するお知らせ】

給食の材料については、新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵攻の影響により価格が高騰しています。本来ならば、1食あたり約40円の値上げが必要ですが、恵那市では保護者の負担軽減を考え、この高騰分について地方創生臨時交付金を充てることとしました。これにより、令和4年度は値上げすることなく従来通りの給食費負担です。（ただし、令和5年度については未定です。）